枕草子

清少納言

の雪

雪のいと高う降りたるを、例ならずまりて、に火おこして、物語りなどして集まりさぶに、

「少納言よ、の雪いかなら。」

とせらるれば、あげさせて、を高く上げたれば、笑せたま。

－31－

　人々も、「さることは知り、歌などにさうたど、思こそよらざりつれ。な、この宮の人にはさべきなめり」とい。